

新刊刊行記念トークイベント

音楽ジャーナリスト・評論家の林田直樹さんの新刊『そこにはいつも、音楽と言葉があった』が2023年1月中旬に発売されます。そこで刊行記念トークイベントが下記の要領で開催されることになりました。

「そこにはいつも、音楽と言葉があった」



独立して22年。音楽ジャーナリスト・林田直樹が著した数々のインタビュー、評論、エッセイ、コラムの中から厳選した38本を収録。アルヴォ・ペルトに「祈り」の本質を聞き、シルヴェストロフからはプーチン政権への批判を引き出し、チェリビダッケ、武満徹、小澤征爾、サイモン・ラトルらとのおきのエピソードを明らかにする。そのどれもが音楽に対する深い造詣と限りない愛情に満ちた、エモーショナルな「文芸」である。巻頭書き下ろしエッセイ「背中を押した言葉たち」も秀逸。クラシック音楽の本質を追求した、林田直樹の集大成。

林田直樹

会場：教文館ナルニア国

(東京都中央区銀座4-5-1 教文館ビル9F
電話 03-3563-0730)

日時：2023年1月31日(火)

18:30～20:00

※20時よりサイン会(終了時間は変更の可能性あり)

定員：40名

参加費：書籍を当日ご購入の方 1,000円

書籍購入なしの方 1,500円

※書籍代金：2530円(本体2300円+税10%)
レジにてお求めください(クレジットカード、電子マネー可)

※参加費は当日受付でお支払いください
(参加費は現金でお願いいたします)

お申し込み方法：教文館ナルニア国
(受付時間 10:00～19:00)
電話 03-3563-0730
◎直接お電話でお申込みください。

※定員が埋まり次第、終了。
お問い合わせは
教文館ナルニア国まで。
ふるってご参加ください。
詳細はサイトをご覧ください。

<https://www.kyobunkwan.co.jp/narnia>



林田直樹

(ハヤシダ ナオキ)

音楽ジャーナリスト・評論家。音楽之友社社外メディア・コーディネーター。1963年埼玉県生まれ。慶應義塾大学文学部を卒業、音楽之友社で月刊誌「音楽の友」「レコード芸術」の編集を経て独立。オペラ、バレエから現代音楽やクロスオーバーまで、美術や文学なども含む幅広い分野で取材・著述活動を行う。月刊誌「婦人画報」などに連載中。インターネットラジオ「カフェフィガロ」のパーソナリティ、「OTTAVA」のプレゼンターを務める。

